

計画コンセプト

1. 様々な人々が交流する拠点

A 内部を公園のようにつくる

誰もが気軽に立ち寄ることが出来、常に人で賑わう施設をつくりまします。



B 共用部に居場所を多くつくる

人々の居場所をつくり、常に人で賑わう施設をつくりまします。



C 市民参画の愛される施設づくり

市民合意形成のサポートをきちんと行い、本当に市民に求められる施設を実現します。



2. 文化・芸術・情報発信の拠点

D あらゆる活動に対応する多機能なホール

ホール公演の無い日も、多目的に利用できることで利用率をアップさせます。



E 活動が見えるつくりと機能配置

活動が見えることで市民同士が触発され、文化活動を活性化させます。



F 発表の場となる共用部広場

施設を訪れる楽しみと、発表の機会をつくり、文化に触れるきっかけを増やします。



3. 歴史とにぎわいのあるまち

G 既存ストックを活用する動線計画

城山の歴史景観や、船頭町・仲町商店街等を含めた回遊動線を強化します。



H 歴史景観・環境との調和

低い軒や歴史に配慮した外観を採用し、景観・環境との調和を図ります。



I まち全体を巻き込んだイベント展開

市民や商店街を巻き込むイベントを展開することで、まち全体で盛り上げます。



4. 誰もが安全で安心できるまち

J インフラ途絶時も機能する

災害時の一時避難所として最低限の機能が使えるような設備とします。



K 子育て世代に配慮した設備の充実

子育て世代が利用しやすいよう、周りから見守れるつくりとし、キッズコーナーや授乳室を充実させます。



L わかりやすく使いやすいユニバーサルデザイン

サインの充実だけでなく、見通しの良さなど説明なしに分かりやすい機能構成とします。



全体配置イメージ

(仮称) 大手前広場

(仮称) 大手前まちづくり交流館

バス乗降場

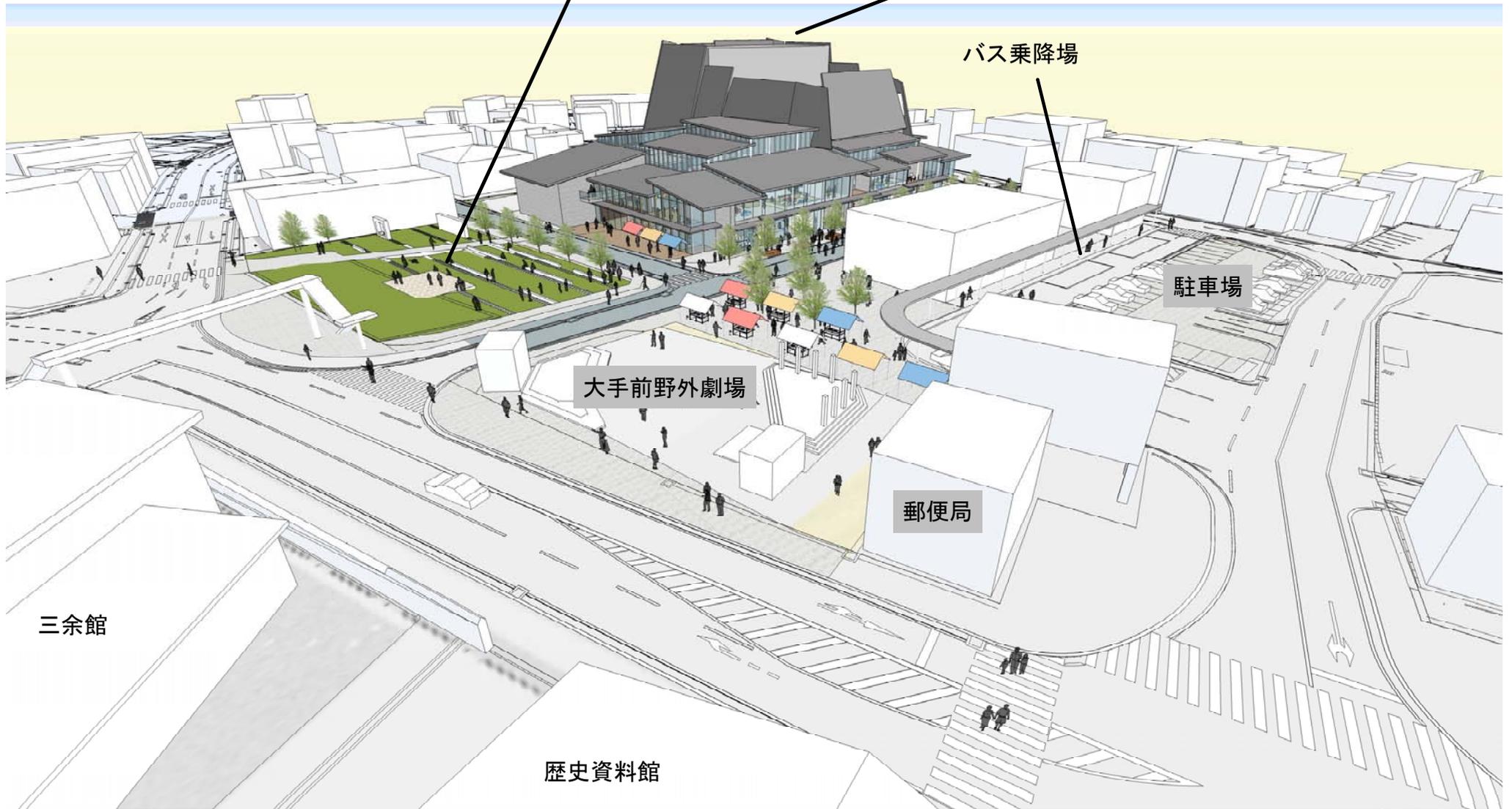
駐車場

大手前野外劇場

郵便局

三余館

歴史資料館



鳥瞰図 (北西より)

(仮称) 大手前まちづくり交流館 (イメージ)



大手前野外劇場前より

諸室の概要

① (仮称) 大手前まちづくり交流館

多目的ホール（大）	座席数 806 席（音楽演奏時 988 席） 座席の一部を可動席とし、平土間形式としても使用可能とする 舞台間口 18m、奥行き 12m（音楽演奏時 9m） ホワイエ、楽屋、備品庫、ピアノ保管庫、楽器庫、搬入口
多目的ホール（小）	座席数 200 席程度 楽屋、備品庫、搬入口
フリースペース	施設内各諸室と連携しやすい配置、図書情報スペースとの一体化を図る ピクチャーレール、テーブル配置
食育活動支援室	調理台 5 台（上足を基本に検討する） シースルーウォール等で賑わいが外部に伝わる設え、準備室への搬入に配慮 セミナーコート（会議室兼用）、準備室
子育て支援室	上足とする、広場が見える配置 キッズルーム、一時預かり室、事務スペース、こども WC、多目的 WC
市民協働センター	施設全体の有効化を図るため、共用の会議室等も活用する 作業スペース、交流スペース、会議室
事務室	職員 10 人程度 受付カウンターは開放的な設えとする
スタジオ	20㎡～80㎡程度（5 室） ダンス・舞踊・バンド練習等、幅広い活動に対応するため、遮音構造とする
会議室	40㎡～50㎡程度（3 室） 一部、楽屋転用を想定
実習室（体験工房）	演劇等の大道具製作にも使用出来るよう、ホール舞台と直近に配置 作業性を考慮し床はベニヤ敷きとする、流し台設置
その他	WC、授乳室、更衣室、コインロッカー、倉庫、備蓄倉庫、機械室等 車いす駐車場、関係者駐車場 9 台、駐輪場 100 台程度

② (仮称) 大手前広場

概ね 1,500㎡
飲食、休憩、仲間同士の語らいの場、スポーツ、健康増進活動、各種イベントの開催、親子連れの遊び場、バーベキュー、本の読み聞かせ等を想定
園路、水飲み場、照明、イベント電源盤を適宜配置

③ 駐車場

一般駐車場 33 台、セキュリティゲートなし

④ (仮称) 野外劇場前広場

休憩、各種イベントの開催
駐輪場 50 台程度、情報発信ボード

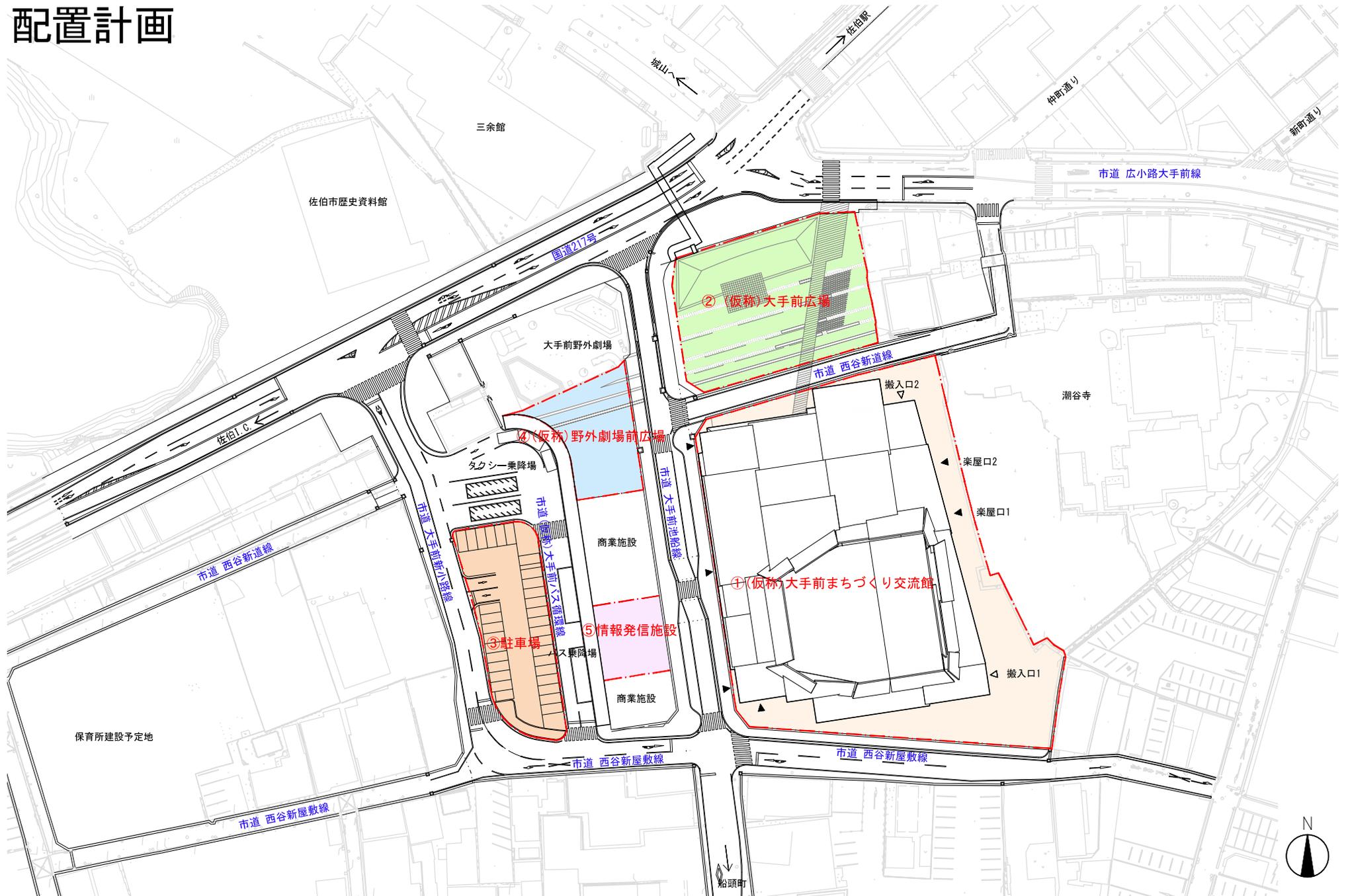
⑤ 情報発信施設

アンテナショップ、バス待合、バス発券機能、事務室、WC 適宜

(参考) 開館時間・休館日

諸 室	休 館 日	利用 時間
ホール部門	年末年始	9:00～22:00
食育活動支援室	年末年始	9:00～22:00
子育て支援室	毎週日曜日、年末年始	9:00～18:00
市民協働センター	年末年始	9:00～22:00
フリースペース	年末年始	9:00～22:00
スタジオ・会議室	年末年始	9:00～22:00

配置計画



平面計画 ①

多目的ホール(大)と多目的ホール(小)を核とし、通り側に食育活動支援室、市民協働センターを配置して多様な市民活動を表出。エントランスは吹き抜けを大きく取り、1階と2階の視線の抜けに配慮する。共用スペースにはテーブルを配置し、市民の居場所をつくる。居場所を活動室の直近に配置することで、新たな活動との出会いが生まれることをねらう。

搬入デッキ2
多目的ホール(小)用の、4tトラックに対応できる搬入デッキ。多目的ホール(大)との同時搬入にも対応。

多目的ホール(小)
多目的ホール(大)舞台と同等の規模の、リハールからライブまで可能な平土間の小ホール。フリースペースに対して開放可能で、他室との連携も容易に行える。



平土間小ホールイメージ

(仮称)大手前広場

フルオープン開口
幅9mの開口でフルオープンに出来る開口を設け、広場との連携利用を促進。

図書ラック配置
共用部に、気軽に手に取れる書籍を配置することで、用事が無くても時間を過ごせる居場所を提供。

連携利用

搬入デッキ1
多目的ホール(大)用の12tトラックに対応できる搬入デッキ。

デジタルサイネージ
共用部に、館内諸室の利用状況や、市民団体の活動アピール映像を流すことが出来るデジタルサイネージ装置を設置。



デジタルサイネージイメージ

車寄せ
交流館への送迎に活用可能。身障者用駐車場2台設置。

1F PLAN

実習室(体験工房)
床がベニヤ敷きで、舞台の大道具製作も可能な実習室。

----- ピクチャーレール設置範囲

商業施設

情報発信施設

商業施設

大手前野外劇場

市道 大手前池線

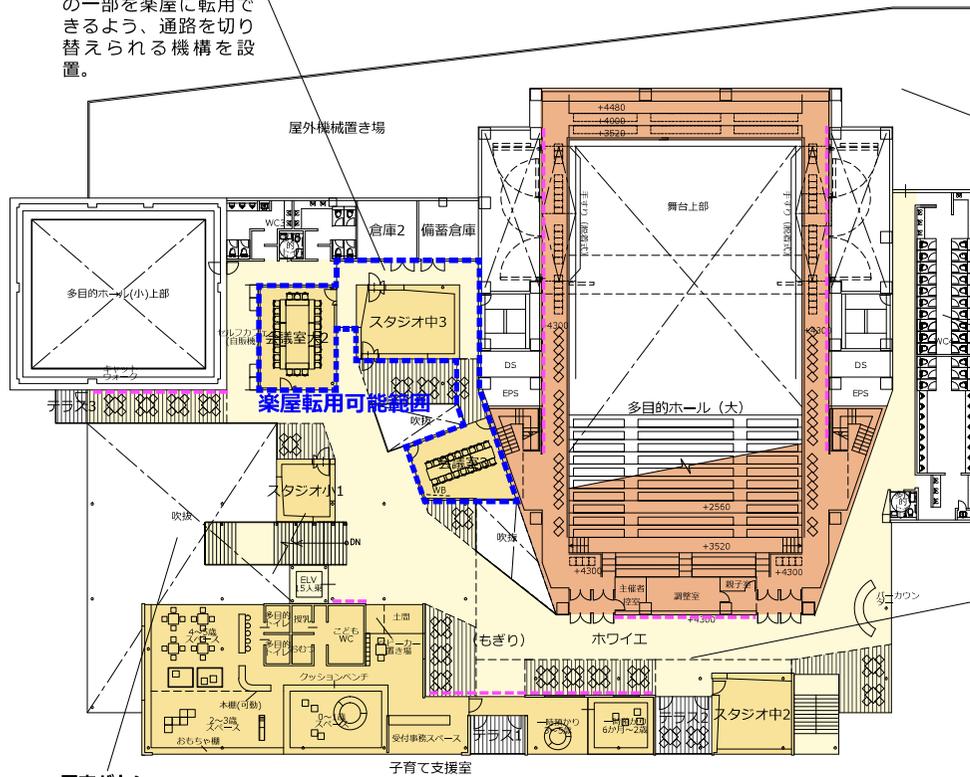


平面計画 ②

多目的ホール（大）のホワイエは2階とする。ホールを使用しない日もホワイエを活用出来るよう、スタジオやテラスの配置の工夫、ピクチャーレール設置を計画する。会議室・スタジオの一部は多目的ホール（大）の楽屋にも転用できる計画とし、大人数の演目にも対応する。

楽屋転用

大人数のイベント時に、スタジオと会議室の一部を楽屋に転用できるように、通路を切り替えられる機構を設置。



固定バトン

エントランスロビーの天井から、大型ポスターやバナーを吊り下げ可能な固定バトンを設置。

2F PLAN



ピクチャーレールによる展示 イメージ



可動パネルによる展示イメージ

屋外機械置き場

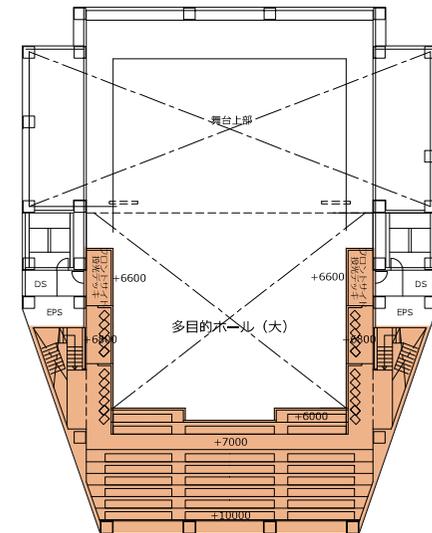
機械を外部仕様とすることで、建築本体の構造躯体量を抑え、コストを抑制。

多目的ホール（大）WC
休憩時に利用が集中することを踏まえ、女子のブース個数を十分に確保。

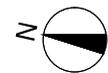
テーパーリカー

ホワイエ不使用時に、共用部として利用出来るよう、ホワイエは床下収納式テーパーで簡易に区切る計画とする。

----- ピクチャーレール
設置範囲

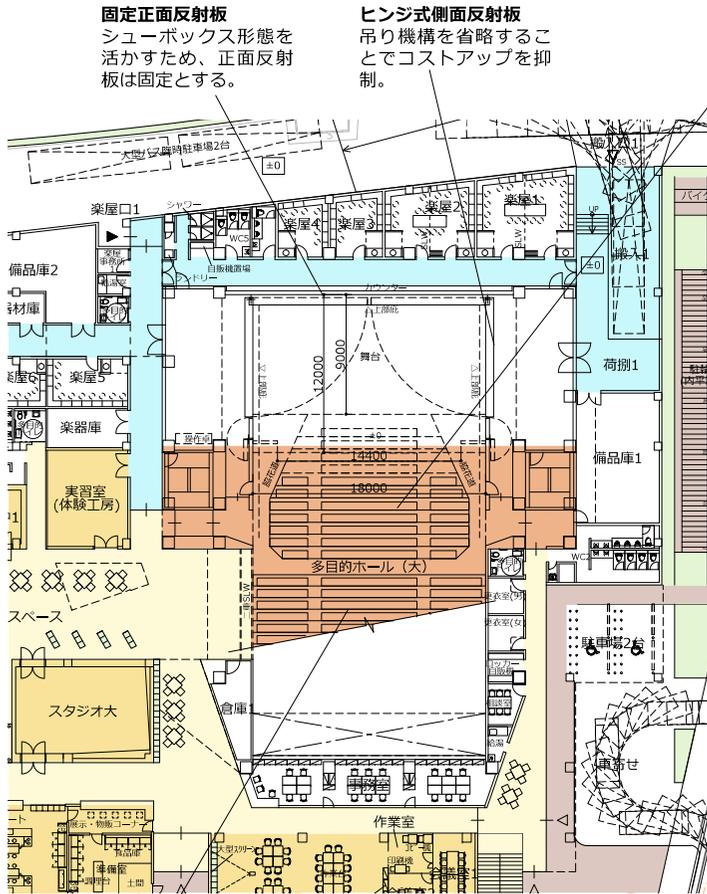


3F PLAN



ホール計画 ①

音響性能の高いシューボックス型のコンサートホールから、軽スポーツができるアリーナまで様々な目的に高いレベルで対応出来るよう、バルコニー席とポディウム席を備えた、観客と演者が強い一体感を得られる座席形式を計画する。バルコニー席は収納可能とし、幕舞台形式時に800席以上を確保する。



固定正面反射板
シューボックス形態を活かすため、正面反射板は固定とする。

ヒンジ式側面反射板
吊り機構を省略することでコストアップを抑制。

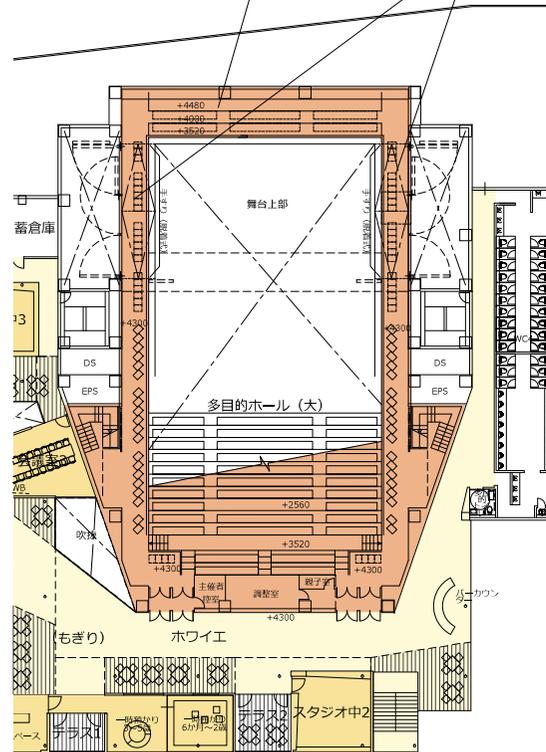
客席ワゴン
前半平土間席は客席ワゴンとし、オーケストラピット迫りを用いて舞台上に収納する。

ポディウム席
舞台後方の席。舞台を取り囲むことで強い一体感を得られるほか、演奏者に近く、演奏技術を間近で見られるメリットがある。

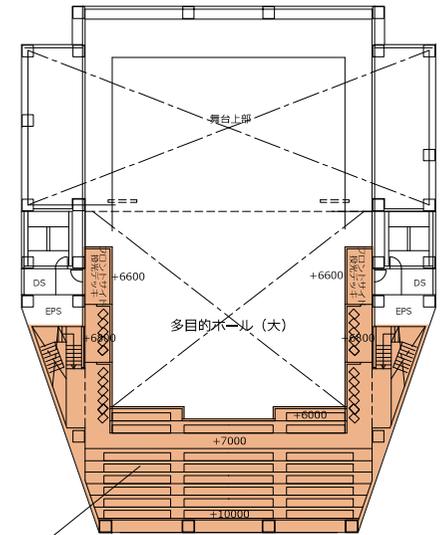
跳ね上げ式バルコニー
スタッキング席（ホルト固定）を外して収納後、跳ね上げ収納する。

ロールバックチェア
後部平土間席はロールバック形式とし、後壁に収納する。揺れや軋みを軽減するよう、フレームを補強する。

1F PLAN



2F PLAN



3階バルコニー席
最大視距離25m（音楽演奏時28m）に抑えた、コンパクトな構成。3階にもサイドバルコニー席を設置。

3F PLAN

ホール座席数

1階平土間席：
ワゴン平土間席1 179席
ワゴン平土間席2 60席
ロールバック席 295席

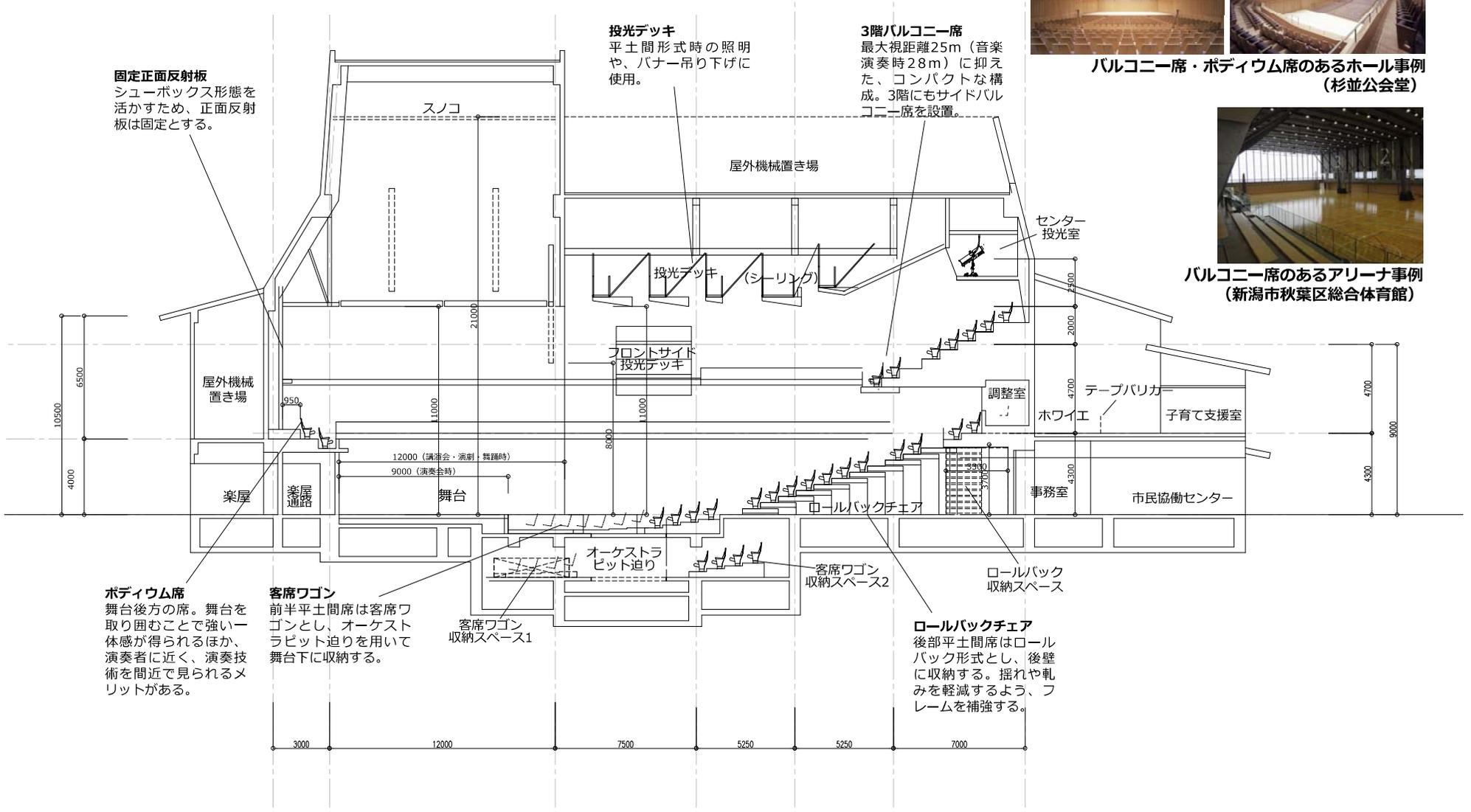
2階：
後部固定席 40席
サイドバルコニー席1 48席
サイドバルコニー席2 42席
ポディウム席 62席

3階席 262席

合計（最大） 988席
※座席数は利用パターンにより異なる

ホール計画 ②

音響反射板は可動とし、幕舞台形式時に分割して収納できるよう、フライタワーを計画する。平土間形式時に床面への照明が可能ないように、客席上部に投光デッキを複数設置。舞台は1階床と同一レベルとし、搬入のしやすさに配慮する。



固定正面反射板
シューボックス形態を活かすため、正面反射板は固定とする。

投光デッキ
平土間形式時の照明や、パナー吊り下げに使用。

3階バルコニー席
最大視距離25m（音楽演奏時28m）に抑えた、コンパクトな構成。3階にもサイドバルコニー席を設置。

ボディウム席
舞台後方の席。舞台を取り囲むことで強い一体感が得られるほか、演奏者に近く、演奏技術を間近で見られるメリットがある。

客席ワゴン
前半平土間席は客席ワゴンとし、オーケストラピット迫りを用いて舞台下に収納する。

客席ワゴン収納スペース1

客席ワゴン収納スペース2

ロールバックチェア
後部平土間席はロールバック形式とし、後壁に収納する。揺れや軋みを軽減するよう、フレームを補強する。

ロールバック収納スペース



バルコニー席・ボディウム席のあるホール事例 (杉並公会堂)



バルコニー席のあるアリーナ事例 (新潟市秋葉区総合体育館)

食育活動支援室

市内で盛んな“食育活動”の拠点となり、多様な世代を対象とした料理教室、研究開発（特産品、新メニュー、加工品等）、イベント（食文化祭、食の選手権等）、教育活動（野菜や魚食、地産地消、スイーツ等）が行える調理実習室。活動を発信することで、食育活動のさらなる発展をねらう。

ガラス間仕切り

ガラスで仕切ることによって、音やにおいの拡散を抑えながら、活動を通りや交流館内に発信できる。



ガラス間仕切り（開閉式）イメージ

セミナーコート

キッチンコートと一体利用可能なつくりとし、スライディングウォールで仕切ることによって会議室としても使用可能。

L字型調理台+作業台

L字型の調理台と、テーブルにもなる作業台との組み合わせにより、調理実習後の試食も室内でスムーズに行える。（継続検討）



L字型調理台+作業台事例

少人数対応

調理台2台~3台でまかなえる少人数の講座・活動を同時に行えるよう、スライディングウォールで分割可能なつくりとする。（継続検討）

（参考）民間料理教室事例

ガラス越しに中の様子が見えることで、自然と室内の整頓が行き届き、また教室そのもののアピールにつながっている。

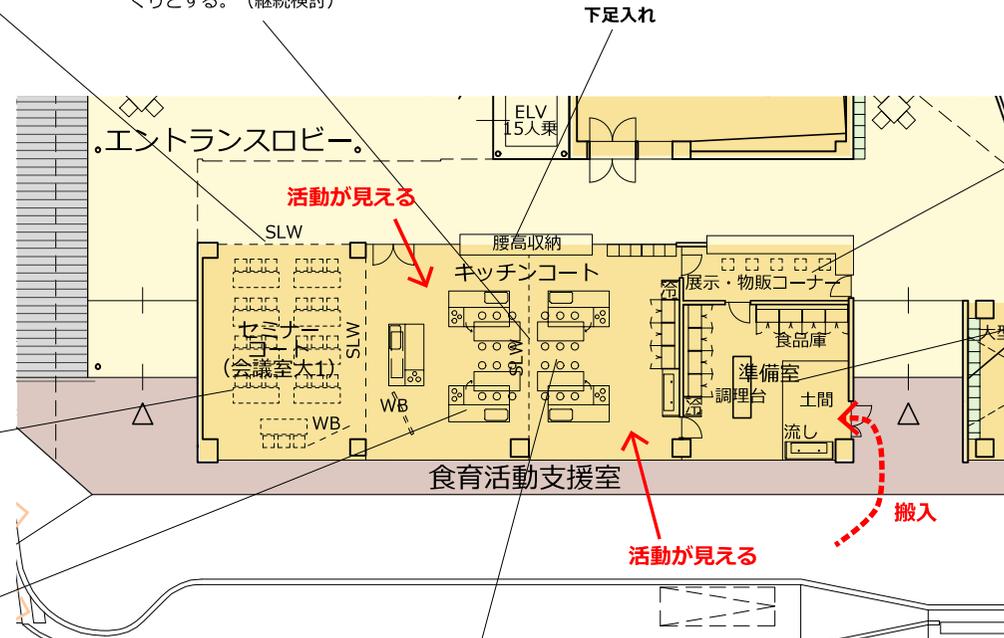


展示・物販コーナー

物産品販売や製品の展示、サークル活動の成果の展示が行えるコーナー。

準備室

準備作業や、食品・道具類の保管を行う準備室。魚をさばける大型流し台や土間を設置。停車スペースからの直接の搬入にも対応。



十分な作業スペース

調理台の間のスペースを広くとり（約2.5m）、作業ワゴンやサブのテーブルにも対応する。

検討設備

- ・調理台の高さ調整機能（一部）
- ・完成品撮影ブース、照明設備
- ・講師用調理台モニター
- ・ホワイトボード（備品）

※設備や備品等については継続検討する

市民協働センター

市民団体の運営相談、講座の開催、情報誌の発刊、交流会の開催等で市民協働団体の活動拠点となる。共用部のテーブルや会議室を活用することで省スペース化を図り、市民の目に入りやすい1階に配置。気軽に利用出来るよう、オープンなつくりとする。

オープンなつくり

オープンとし、共用部と間仕切り無しで空間が連続することで、誰でも気軽に立ち寄れるコーナーとし、利用しやすい雰囲気をつくる。



プロジェクター

活動の情報発信のための映像を映し出すプロジェクター・スクリーンの設置を検討する。



フレキシブルな机・イス イメージ

フレキシブルな机・イス

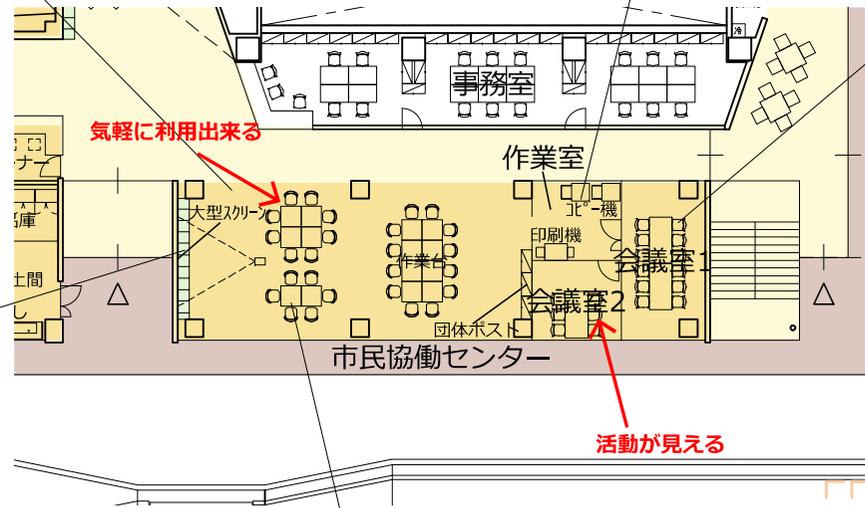
オープンスペースに、並べ方によって個別の打合せテーブルにも、会議テーブルにも、作業台にも利用出来る机・イスを配置することで、市民の様々な活動に対応出来る。

作業室

コピー機2台と印刷機を設置出来るスペース。印刷物の整理・製本等の作業はオープンスペースを利用。

会議室

小規模の会議室を2室設置。利用頻度が少ない時期には共用利用も可能。大人数の会議や作業には、2階の会議室やスタジオ利用を想定。



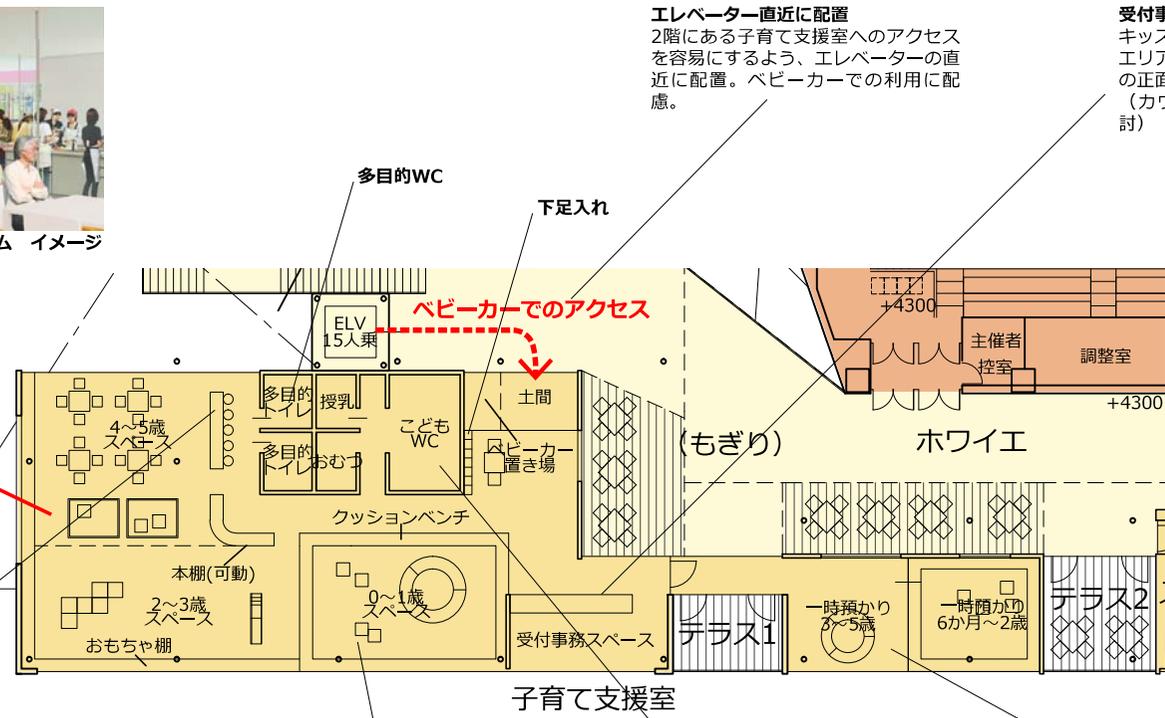
子育て支援室

子育て支援拠点事業（自宅で子育てをする親への支援）、キッズルーム（室内での子どもの遊び場）、一時預かり事業（本施設で行われるコンサート、発表会及び講演会等の際に手軽に安心して預けられる託児サービス）を行う支援室として整備する。



中の様子が見えるキッズルーム イメージ

広場が見える



エレベーター直近に配置

2階にある子育て支援室へのアクセスを容易にするよう、エレベーターの直近に配置。ベビーカーでの利用に配慮。

受付事務スペース

キッズスペースと一時預かりの両方のエリアを管理しやすい、エントランスの正面に配置。
(カウンター形状については継続検討)

みまもりカウンター

親がカウンター越しに遊んでいる子どもを見守れるカウンター。
(安全性、要否については継続検討)



みまもりカウンター事例

世代によるスペース分け

子どもの体格差を考慮し、世代によってスペースを分割することで、小さな子どもの安全性を確保。
(年齢層や分割方法については継続検討)

こどもWC

親が手伝えるように低いブースで仕切られたこどもWC。
(レイアウトについては継続検討)



こどもWCイメージ

一時預かり機能

キッズスペースとは独立して設置することで、子どもの安全性や、職員の管理のしやすさに配慮。

※設備や備品等については継続検討する

広場の考え方

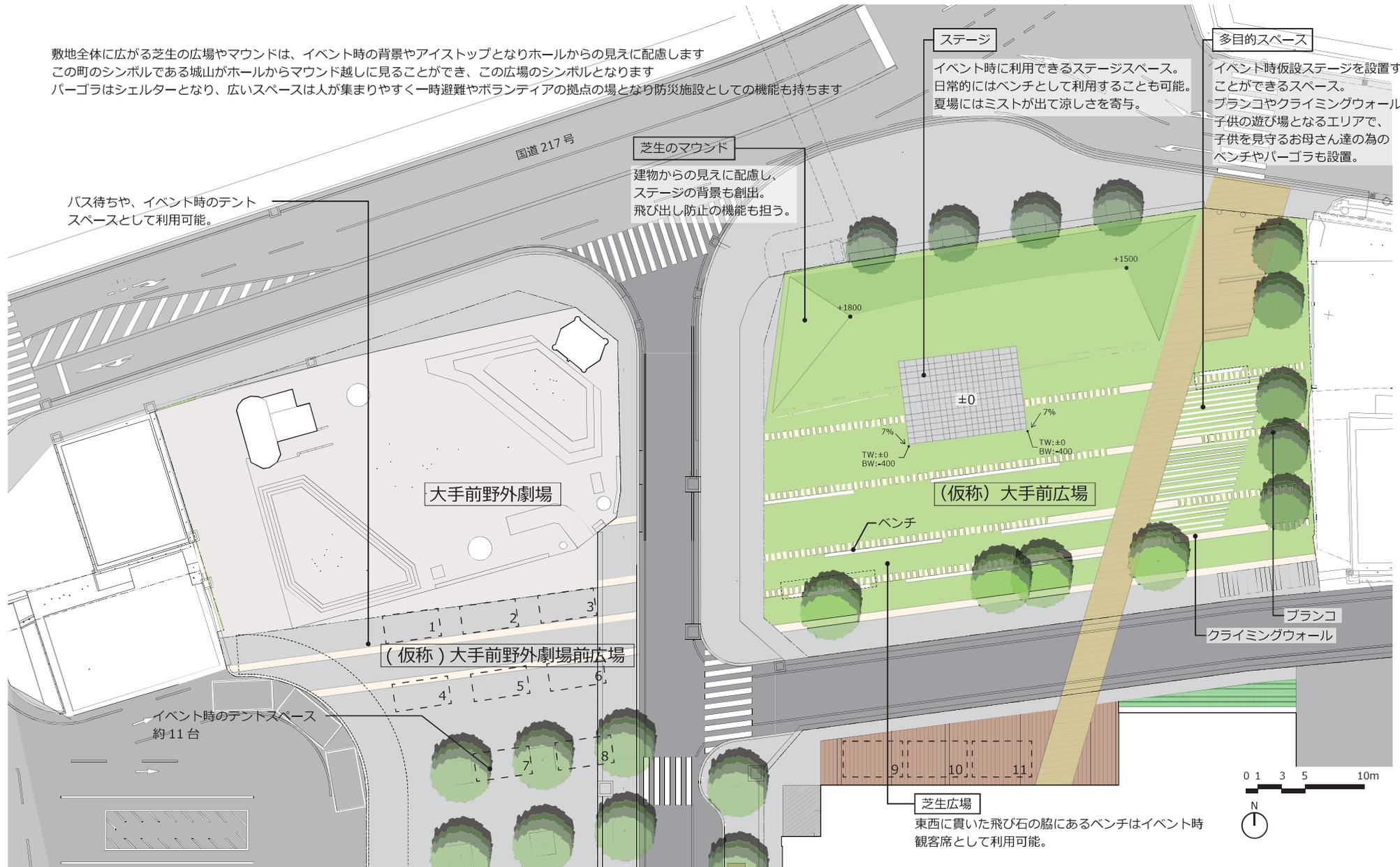
敷地全体に広がる芝生の広場やマウンドは、イベント時の背景やアイストップとなりホールからの見えに配慮します
この町のシンボルである城山がホールからマウンド越しに見ることができ、この広場のシンボルとなります
パーゴラはシェルターとなり、広いスペースは人が集まりやすく一時避難やボランティアの拠点の場となり防災施設としての機能も持ちます

バス待ちや、イベント時のテントスペースとして利用可能。

芝生のマウンド
建物からの見えに配慮し、ステージの背景も創出。飛び出し防止の機能も担う。

ステージ
イベント時に利用できるステージスペース。日常的にはベンチとして利用することも可能。夏場にはミストが出て涼しさを寄与。

多目的スペース
イベント時仮設ステージを設置することができるスペース。ブランコやクライミングウォール等、子供の遊び場となるエリアで、子供を見守るお母さん達の為のベンチやパーゴラも設置。



広場については継続検討する

■施設概要

1. (仮称) 大手前まちづくり交流館の紹介

人々の活動を、支え・高め・広げる複合施設

- 文化芸術の鑑賞・創造機能、食育活動・子育て支援・まちづくり等の市民活動を支援する活動支援機能、地場産品等の開発・研究・展示機能、情報発信機能、交流創出機能を有する複合施設
- 誰もが気軽に集まり、人々の居場所となる安全・安心な施設

2. 複合施設を構成する施設と機能

市民ホール(大ホール・小ホール)
<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術振興、鑑賞・発表・創作活動 ・各種展示会、パーティー、イベント等の開催
食育活動室
<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかキッチンスタジオ(料理教室・食育セミナー) ・地場産品の開発・研究
市民協働センター
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決や活性化に取り組む市民団体等の活動拠点 ・ミーティング、資料作成、活動相談、団体同士の情報交換
子育て支援室
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども広場、子育て相談、一時預かり ・子ども自身の育ち「子育て」と、パパやママの「子育て」をサポート
スタジオ・会議室
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽、ダンス、美術・書道等多様な文化芸術活動 ・会議、講習会等の開催
図書・情報
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動につながる図書、食育・子育て情報誌の設置 ・観光・イベント案内、文化芸術、市民活動の情報発信

■事業計画

1. 開館事業

- ブレ事業
複合施設の完成前に、施設に対する関心や愛着を醸成する事業
- 開館記念事業
複合施設完成後に、より一層の市民意識を醸成するための事業

2. 自主事業

- 個別事業
複合施設内の各施設が行う個別事業
- 連携事業
複合施設内の施設同士が連携して行う事業
- 市民自主事業
市民が自ら企画立案し実施まで行う事業
- 市民提案事業
市民からの提案要望に基づき実施する事業

3. 貸館事業

- 貸館事業
複合施設内の各施設の貸し出し事業

4. 事業・活動が広がるイメージ

○各施設内での活動を連携させた事業



○施設同士を一体利用する事業



○市民団体等と協働連携する事業



☆複合施設を構成する各施設が個々に機能を発揮するとともに、各分野が連携・融合し相乗効果を生み出す事業を展開する。

☆共用部のフリースペースに人が集まる仕掛けや各施設の平日昼間の稼働が高まる運営を行う。

☆市民参画・協働による活動や事業が、世代や地域を超えた交流や賑わいを創出し、街中へ広がることを期待する。

■運営体制計画

1. 基本方針

オープンから当面の期間は市の直営による管理運営を行うが、サービスの向上、専門人材の確保育成、市民の活躍と雇用の場の創出の観点から、指定管理者制度の導入のほか、自主事業の運営に市民や市民公益活動団体(NPO等)に任せるといった市民協働による運営も含めて検討する。

2. 専門スタッフの起用・育成

音楽・演劇をはじめ多様な事業を企画・実施していく役割を担うとともに、文化活動を行う市民や利用者に対して適切に支援できる専門家の配置を検討する。

3. 市民参画

本施設の多種多様な活用と市民活動の促進を図るため、施設の管理運営を支援する市民ボランティア(サポーター)組織を導入するなど、積極的な市民参画による運営を検討する。

4. 市民参画の促進制度

ボランティアの活動報酬として会員通貨を発行して施設の使用料やチケット料金として使える制度を構築する等、市民参画を促進する仕組み作りを検討する。

■利用規則

1. 基本方針

- 本施設は多くの市民や来訪者が利用する日常的な活動・交流の場であるため、各施設機能を十分に発揮するとともに、複合施設であることのメリットを最大限に生かし、効率的かつ効果的なサービス提供ができるような施設の管理を目指す。
- バス待合や地域の安心・安全、本施設が交流の場であることを考慮し、施設ごとに休館日の設定を検討する。
- 市民から愛される施設、利用される施設として、開館後の利用形態、活動内容等を調査、ヒアリングすることで、開館日・開館時間、利用可能時間を検討する。
- 施設内は基本飲食可能とするが、市民の意見や施設特性等を考慮して、アルコールの可否の検討も含めてルール・マナーづくりを行う。

2. 貸施設利用の基本方針

- 貸施設を多くの市民が効率的に利用できるよう、利用区分の細分化を基本とする方針で検討する。
- 時間区分を細分化することで、空き時間の発生が想定されることから、空き時間の利用を促進するような料金設定等について検討する。

■収支計画

1. 基本方針

- 文化芸術、情報発信の拠点、人々の交流の拠点としての機能を適正に維持していくために必要な経費の確保に努める。
- 積極的な広報活動により、収入の確保に努める。
- 地域の文化力の向上や市民活動の活発化により、施設稼働率を上げ収入を確保する。
- 外部資金を自主事業財源として有効活用する。
- 市民ボランティアの参加を促進する仕組みを構築することで、事業費を効果的に活用する。

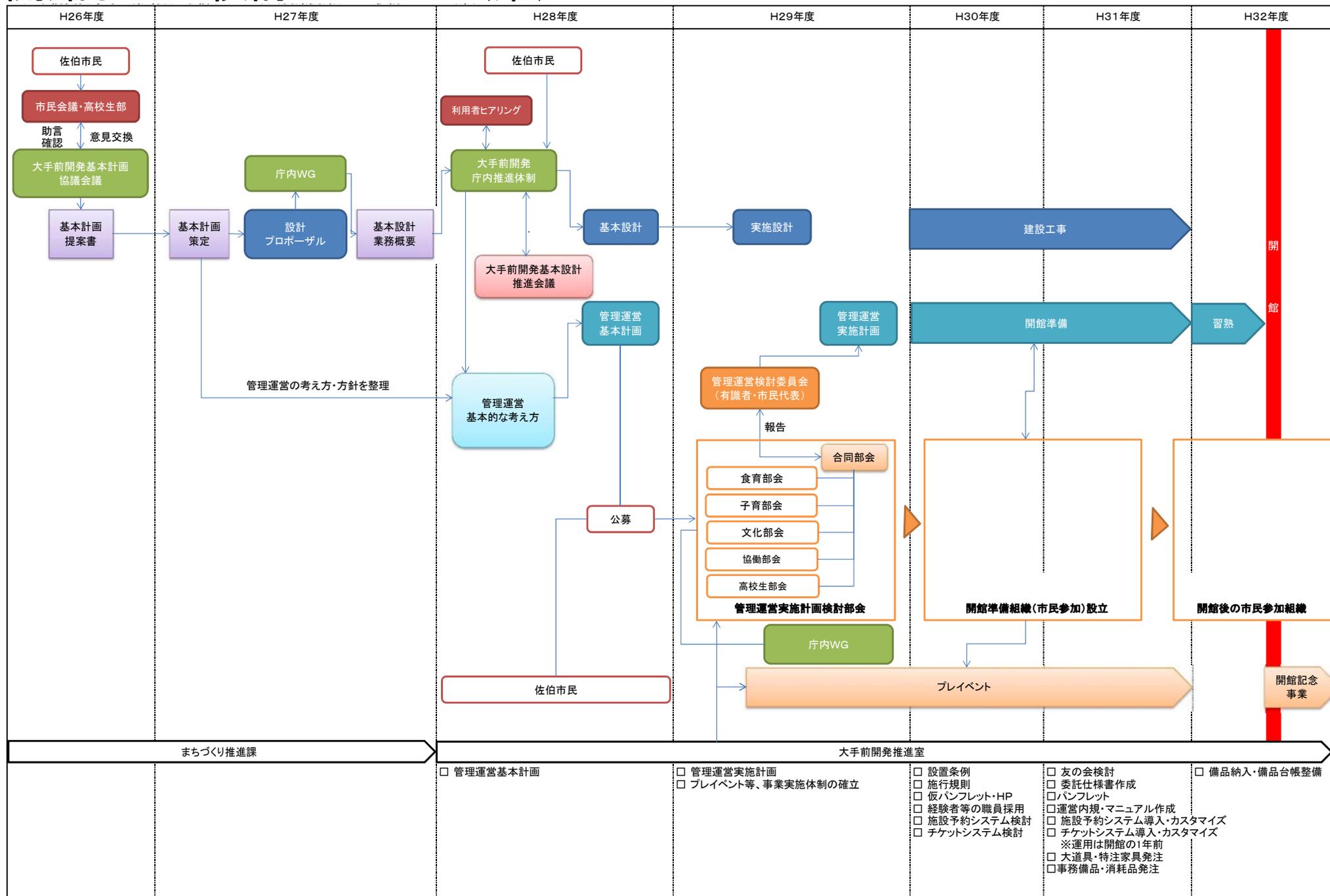
2. 収支イメージ

支出	人件費	維持管理費				事業費		
		管理費	光熱水費	事務費	修繕費			
内訳	職員給与など	設備点検、清掃、警備などの費用	電気、水道、ガスなどの使用料	通信費、消耗品費など	小規模修繕費	事業経費		
収入	市負担金					貸館収入	自主事業収入	助成金
内訳	運営管理に係る総経費から施設貸館料金収入および自主事業入場料収入・助成金を差し引いた金額					施設・備品の貸出料金	チケット代、参加料等	国、民間等からの補助金、助成金等

3. 経費予測

- 維持管理費 : 7,800万円
- 事業費 : 3,000万円
(同財政力規模・同人口規模市からみた目標値)

開館までの検討プロセス（案）



大手前開発事業 概略工程表

区分	大手前開発事業 概略工程表																																														
	平成27年度						平成28年度						平成29年度						平成30年度						平成31年度																						
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
基本設計	◇ 基本設計 工期 28.3.26 ~ 28.12.20						→																																								
実施設計							◇ 実施設計 工期 ~ 29.9						→																																		
地質調査等	◇ 地質調査 ◇ 地下構造物解体撤去工事						→																																								
建築工事							◇ 入札準備 29.9 ~ 29.12 ◇ 契約議決 30.3議会 ◇ 交流館建築工事 30.3 ~ 32.3 ◇ 情報発信施設(バス待機能含む) ~30.3						→						→						→																						
道路工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道217号 ・ 市道大手前新小路線 ・ 市道西谷新屋敷線 ・ (仮称)市道大手前バス循環線 ほか 						→												◇ 30.4 新バスルート供用開始						→																						

大手前開発事業 概算事業費・財源内訳（平成28年11月）

◆ 概算の整備事業費

事業区分	項目	基本計画時（平成26年度概算）		（平成28年11月概算）		増減比較			増減の主な要因
		数量	概算金額	数量	概算金額	数量	事業費	増減率	
測量及び試験費	測量地質調査	一式	300,000	一式	492,000	-	192,000	64.0	地下水路測量設計等 事業損失調査、建物再算定、文化財調査の増 監理業務等の増
	基盤整備設計等								
	補償調査等								
	建築・公園設計監理								
基盤整備	敷地造成工事	一式	260,000	一式	569,000	-	309,000	118.8	地下構造物解体撤去工事の増 取付道路3路線、（仮称）大手前バス循環線工事の増 野外劇場前広場工事の増 サイン、照明、駐輪場工事の増
	道路								
	広場								
	駐車場								
	上下水道								
	水路								
建築工事	ホール棟複合施設	約6,700㎡	4,730,000	約6,300㎡	5,410,000	△400㎡	680,000	14.4	1棟建てに伴う延床面積の減 建設費高騰による増など
	情報発信施設・庇	一式		一式	84,000	一式	84,000	皆増	情報発信施設、歩道の庇工事の増
用地補償	用地・建物補償等	-	1,030,000	-	1,035,000	-	5,000	0.5	
合 計			6,320,000		7,590,000		1,270,000	20.1	-----

◆ 財源内訳（試算）

建設事業費 6,320,000千円			
社会資本整備総合交付金 （都市再生整備事業） 1,420,000千円	合併特例債 4,570,000千円		一般財源
	基準財政需要額への算入額 3,199,000千円		未算入額 1,371,000千円
+568,600千円		+679,000千円	
建設事業費 7,590,000千円			
社会資本整備総合交付金 （都市再生整備事業） 1,988,600千円	合併特例債 5,249,000千円		一般財源
	基準財政需要額への算入額 3,674,300千円		未算入額 1,574,700千円
+22,400千円		+352,400千円	

※ 基準財政需要額への算入額・未算入額は、合併特例債の元金に係る償還金を計上している。